

所属名称：総務課

(単位：千円)

(款-項-目-事業名称)	(最終予算額)	(決算額)	(ヘ-ジ)	(備考)
一般会計				
商工観光課	221,069	200,408		
2.総務費	12,538	11,849		
5.統計調査費	660	632		
1.統計調査費	660	632		
基幹統計調査	660	632		事務費
7.地方創生事業費	11,878	11,217		
2.地方創生加速化交付金事業費	11,878	11,217		
地方創生加速化交付金連携事業(商工観光課)	3,878	3,677		事務費
うち繰越分	3,878	3,677		
未来へつなぐ琴浦農業プロジェクト(商工観光課)	8,000	7,540	4-1	
うち繰越分	8,000	7,540		
6.商工費	207,182	188,232		
1.商工費	207,182	188,232		
1.商工総務費	0	0		
人権・同和对策雇用促進協議会	0	0		
2.商工振興費	34,566	34,329		
商工業の振興	32,061	31,849	4-2	
中小企業小口融資	2,505	2,480		事務費
3.観光費	86,018	69,883		
まんが王国推進事業	863	854	4-3	
一向平キャンプ場の管理と清掃活動事業	6,227	5,991	4-4	
観光振興事業	31,519	30,557	4-5	
旧中井旅館管理運営事業	245	200	4-6	
船上山さくら祭り運営事業	1,800	1,763	4-7	
船上山管理運営	3,363	2,656	4-8	
うち繰越分	80	73		
道の駅ポート赤碕運営管理	3,406	3,132	4-9	
白鳳祭	4,200	4,123	4-10	
物産館ことら管理運営	34,395	20,607	4-11	
4.地域振興費	86,245	83,677		
きらりタウン・槻下団地定住促進事業	6,800	6,700	4-12	
コトウラ暮らしお試し滞在住宅事業	707	561	4-13	
移住定住促進事業	8,176	7,406	4-14	
交流ネットワーク事業	541	394	4-15	
公共交通対策事業	61,213	60,313	4-16	
国際交流の推進	3,517	3,379	4-17	
三本杉ふるさと分校管理	70	66	4-18	
地域活性化基金	12	11		事務費
日韓友好交流公園管理運営	4,590	4,276	4-19	
八橋ふれあいセンター管理	619	571	4-20	
5.企業誘致推進費	352	342		
企業誘致推進事業	352	342	4-21	
10.災害復旧費	1,229	207		
2.地震災害復旧費	1,229	207		
2.鳥取県中部地震対策費	1,229	207		
鳥取中部地震災害対策事業(地震災害復旧費・商工観光課)	1,229	207		事務費
12.諸支出金	120	120		
1.諸費	120	120		
1.国県支出金返納金	120	120		
国県返納金	120	120		事務費

※端数処理の為、決算書の決算額と一致しない場合があります。

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	1316	事業名	未来へつなぐ琴浦農業プロジェクト			事業区分	■新規 □継続		
担当課	商工観光課		担当係	商工係					
予算区分	款	2	総務費	項	7	地方創生事業費	目	2	地方創生加速化交付金事業費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度 (繰越)	8,000	7,540	7,540						
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
新規販売先	件	目標			1				
		実績			2				
		達成率			200%				
事業の対象 (だれに)	首都圏を中心とした県外のバイヤーや消費者等								
事業の目的 (なんのため)	『食のるつぼ琴浦』による町産品の発信と首都圏における販路開拓を進めることで、琴浦ブランド化を推進し、地域産業の競争力を高める。								
事業の実施状況	<p>○ことうら商品販路開拓事業 首都圏に販路開拓コーディネーター〔1名〕を通年で設置し、ことうら商品の販路開拓を行いました。</p> <p>○食のるつぼ琴浦物産フェアの開催 9/10, 11の2日間、東京新橋で琴浦フェアを開催しました。 町内13事業者が出店、1,000人の来場者に町の特産品をPRすることができました。</p>								
成果と課題	<p>〔成果〕 (新規契約2件) 販路開拓事業については、初年度の取り組みで培った人脈などにより、新たな取引先の開拓や取引商品の拡大などにつなげることができました。 町が物産フェアを開催することで、琴浦町の特産品をまとめてPRすることができました。 また、同フェアへの出店事業者と店舗との新規常設取引が成立したり、招待したバイヤーが出展商品に興味を持ったことで商談に進むなど、一定の成果がみられました。</p> <p>〔課題〕 関東は最大の商圈であるが、それゆえにロットや物流コストなどの条件も難しいため、町内各事業者の規模にあった取引先をマッチングできるかが課題です。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	10	10	1	5	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			30	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	関東での取引を希望する事業者の販路開拓のきっかけを作るため、当面は行政による機会の創出が必要と考えます。								



平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

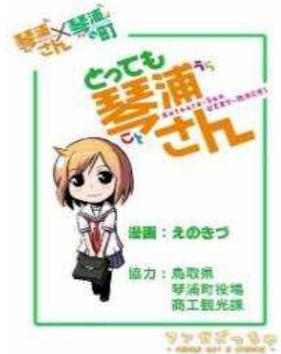
1 事業の成果及び評価

事業番号	210	事業名	商工業の振興			事業区分	□新規 ■継続																			
担当課	商工観光課		担当係	商工係																						
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	2	商工振興費																	
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考																		
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源																			
平成28年度	32,061	31,849			19,135		12,714	基金繰入金 基金利子																		
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30																			
新規起業件数	件	目標	1	2	2	2	2																			
		実績	0	1	1																					
		達成率	0	50%	50%																					
育児休業取得事業 の利用件数	件	目標	5	5	5	5	5																			
		実績	0	10	3																					
		達成率	0	200%	60%																					
事業の対象 (だれに)	町内事業所、及び町内で起業する又は町内事業所に勤務する移住者等																									
事業の目的 (なんのために)	町内事業所に対して必要な施策を講じることにより、各社の自主的な努力を助長することで、町内の雇用の場の確保及び地域経済の活性化を図る。																									
事業の 実施状況	<p>次のとおり補助金を交付しました。</p> <table border="0"> <tr> <td>商工会補助金</td> <td>6,500千円</td> </tr> <tr> <td>労務改善協議会補助金</td> <td>280千円</td> </tr> <tr> <td>小規模事業者経営改善資金利子補給補助金</td> <td>706千円</td> </tr> <tr> <td>雇用促進奨励助成金(町内)70名分</td> <td>20,800千円</td> </tr> <tr> <td>〃(中部)3名分</td> <td>900千円</td> </tr> <tr> <td>育児休業促進事業補助金3名分</td> <td>400千円</td> </tr> <tr> <td>販路開拓チャレンジ支援事業補助金5件分</td> <td>217千円</td> </tr> <tr> <td>海外への販路開拓支援事業補助金3件分</td> <td>339千円</td> </tr> <tr> <td>起業支援補助金1件分</td> <td>500千円</td> </tr> </table>								商工会補助金	6,500千円	労務改善協議会補助金	280千円	小規模事業者経営改善資金利子補給補助金	706千円	雇用促進奨励助成金(町内)70名分	20,800千円	〃(中部)3名分	900千円	育児休業促進事業補助金3名分	400千円	販路開拓チャレンジ支援事業補助金5件分	217千円	海外への販路開拓支援事業補助金3件分	339千円	起業支援補助金1件分	500千円
商工会補助金	6,500千円																									
労務改善協議会補助金	280千円																									
小規模事業者経営改善資金利子補給補助金	706千円																									
雇用促進奨励助成金(町内)70名分	20,800千円																									
〃(中部)3名分	900千円																									
育児休業促進事業補助金3名分	400千円																									
販路開拓チャレンジ支援事業補助金5件分	217千円																									
海外への販路開拓支援事業補助金3件分	339千円																									
起業支援補助金1件分	500千円																									
成果と 課題	<p>[成果]</p> <p>町内事業所の正規雇用の拡大や、子育て世帯の仕事と育児の両立の支援を行い、働きやすい職場づくりを推進することができました。</p> <p>また、起業や販路開拓など、挑戦をする事業者へ支援を行うことによって、町内商工業の活性化を図ることができました。</p> <p>[課題]</p> <p>雇用情勢の変化に伴って、雇用促進のための施策から人材確保や定着に関する施策へと、方向転換が必要な時期にきています。</p> <p>販路開拓など利用事業者が少数、固定化されています。</p>																									
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																	
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																	
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																	
評価点	7	10	3	1	1	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																	
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																	
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																	
評価点計 (40点満点)		23		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																					
担当課による判定と理由																										
C	商工業の育成強化、地域経済活性化を推進していく上で継続すべき事業です。町内事業所の現状を把握し、新たな施策を検討したいと考えます。																									

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	1148	事業名	まんが王国推進事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	観光係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		863	854	国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源
平成28年度					363	57		434	名刺販売
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30	
設定なし	件	目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	町内外の不特定多数の方								
事業の目的 (なんのため に)	漫画を通じて琴浦町のイメージアップを図る。								
事業の 実施状況	漫画『とっても琴浦さん』を町ホームページで先行掲載しました。 324千円 ・今年度の町HPのアクセスランキングでトップ ・連載終了後には単行本化され、今井書店(アプト)限定で先行販売。								
成果と 課題	[成果] 各種タイアップ商品を作成し、町のキャラクターとして認知、定着させることができました。 琴浦町のPRに一役買い、合わせて観光誘客にも寄与しました。  [課題] マンガ原作が終了。 ⇒琴浦さんの役目はひとまず終了。名刺などの既製品で継続PRを実施する。								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	3	7	1	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			18	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
E	事業の新規性がなくなったため、平成28年度をもって一旦終了とします。								



平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	217	事業名	一向平キャンプ場の管理と清掃活動事業			事業区分	□新規 ■継続							
担当課	商工観光課		担当係	観光係										
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費					
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考						
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源							
平成28年度	6,227	5,991		209			5,782							
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30							
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6	82.5	86.6							
		実績	71.3	67.8	65	—	—							
		達成率	—	90.6%	82.7%									
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230	240	250							
		実績	210	217	—	—	—							
		達成率	—	98.6%										
事業の対象 (だれに)	キャンプ場等の利用者													
事業の目的 (なんのために)	町民の観光レクリエーション活動の場を確保し、中山間地域の振興と活性化を図る。													
事業の実施状況	指定管理者（一向平森林保全協会）による施設の管理運営を行いました。 指定管理料 3,000 千円 施設の維持管理を行いました。 修繕料 1,284 千円 各種保守点検等手数料 1,115 千円													
成果と課題	[成果] 利用者数 <table border="1"> <tr> <td>27年度</td> <td>8,979人</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>7,201人</td> </tr> </table>		27年度	8,979人	28年度	7,201人	[課題]  大山滝等の自然景観以外に、食（一向そば、バーベキュー等）の情報も広報活動として広めるという目的を達成できるよう、対策が必要です。							
27年度	8,979人													
28年度	7,201人													
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0					
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0					
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0					
評価点	3	3	1	1	1	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0					
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0					
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0					
評価点 計 (40点満点)		10		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止									
担当課による判定と理由														
C	利用者が減少傾向にある中、今後は大山開山1300年祭と連携した新たな取組みにより、利用者の増加を目指したいと考えます。													

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	215	事業名	観光振興			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課			担当係	観光係				
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)					備考
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	31,519	30,557				16,000		14,557	基金繰入金
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30	
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6		82.5	86.6	
		実績	71.3	67.8	65		—	—	
		達成率	—	90.6%	82.7%		—	—	
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230		240	250	
		実績	210	217	—		—	—	
		達成率	—	98.6%	—		—	—	
事業の対象 (だれに)	一般観光客								
事業の目的 (なんのために)	「食べる観光」をテーマとして観光振興により交流人口を増やし地域経済の活性化を図るため。								
事業の実施状況	鳴り石の浜公衆トイレ新設工事 15,120 千円 WTC琴浦グルメめぐるウォーク実施 800 千円 琴浦町観光情報発信業務委託 6,900 千円								
成果と課題	[成果] 年間観光入込客 650,079人 * 鳥取県中部地震・冬季の豪雪により前年度比減 WTCグルメめぐるウォーク (10/15) 参加者 825人 (うち海外71人、県外100人、県内654人)  [課題] 1 さらなる観光入込客数を目指し、交流人口の増加、地域経済の活性化を図る ⇒道の駅「琴の浦」での観光窓口などを活用し、情報発信の強化を図る。 2 観光振興による町全体が潤う仕組みの構築を図る。 ⇒観光協会等と連携し、琴浦グルメの発信強化や着地型観光メニューの創出を図る。								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
評価点	7	3	5	3	3	3	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点 計 (40点満点)		24		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
C	道の駅「琴の浦」を情報発信の新たな拠点とすることとあわせ、観光振興施策の改善を行い、町内全体の交流人口の増加を目指す。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	1142	事業名	旧中井旅館管理運営事業			事業区分	□新規 ■継続					
担当課	商工観光課		担当係	観光係								
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費			
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考				
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源			
平成28年度	245	200				29		171	使用料			
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30					
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6	82.5	86.6					
		実績	71.3	67.8	65	—	—					
		達成率	—	90.6%	82.7%							
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230	240	250					
		実績	210	217	—	—	—					
		達成率	—	98.6%								
事業の対象 (だれに)	町民 (主に八橋地区)											
事業の目的 (なんのために)	町民の交流の場、観光振興及び町の活性化に資する。											
事業の実施状況	施設の維持管理、運営を行いました。											
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>利用者数</p> <table border="1"> <tr> <td>28年度</td> <td>1,644人 (うち、観光目的 113人)</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>2,150人 (うち、観光目的 231人)</td> </tr> </table> <p>観光としての利用は、主にコスプレコンシェルジュ事業や見学</p> <p>[課題]</p> <p>町民の交流の場として多く利用されていますが、観光目的での利用が少なく、前年度と比較して118人減っています。</p>								28年度	1,644人 (うち、観光目的 113人)	27年度	2,150人 (うち、観光目的 231人)
28年度	1,644人 (うち、観光目的 113人)											
27年度	2,150人 (うち、観光目的 231人)											
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0			
評価点	3	7	1	1	1	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0			
							公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0			
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0			
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0			
						先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0				
評価点 計 (40点満点)		14		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止							
担当課による判定と理由												
C	観光振興としての利用が少ない。地元の活性化団体と連携を図るなど利用者を増加させるための取組みが必要											

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	411	事業名	船上山さくら祭り運営事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	1,800	1,763			1,500		263	基金繰入金	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30	
来場者数	人	目標	3,000	3,000	3,000				
		実績	2,700	2,612	3,020				
		達成率	90%	87%	101%				
事業の対象 (だれに)	町民、町内事業者、来場者								
事業の目的 (なんのため)	住民参加による祭りを開催することで町の活性化を図るとともに、地域の伝統芸能・文化を継承、再認識する機会とし、地域への誇りをもつためのきっかけをつくる。								
事業の実施状況	船上山さくら祭り実行委員会に対して補助金を交付しました。								
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>実行委員会を組織し、第25回船上山さくら祭りを開催しました。  開催日 平成28年4月24日  会場 船上山万本桜公園  来場者 3,020人</p> <p>[課題]</p> <p>来場者の駐車場が不足しているため対策が必要です。  行政主体の催しとなっています。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	7	3	3	3	3	0	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)		19		判定基準		A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止			
担当課による判定と理由									
E	長い経過の中で行政主体のイベントとなっており、本来必要な住民の参画意識が薄れてしまっている。一旦白紙に戻し、仕切り直しが必要と考える。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	407	事業名	船上山管理運営			事業区分	□新規 ■継続						
担当課	商工観光課		担当係	観光係									
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費				
年度	最終 予算額 (千円)	3,363	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)				備考					
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源				
平成28年度						1,260		1,396	基金繰入金				
平成28年度(明繰)		80	73					73					
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30						
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6	82.5	86.6						
		実績	71.3	67.8	65	—	—						
		達成率	—	90.6%	82.7%								
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230	240	250						
		実績	210	217	—	—	—						
		達成率	—	98.6%									
事業の対象 (だれに)	町民、観光客等												
事業の目的 (なんのため)	町内観光地の更なる誘客につなげる。												
事業の実施状況	船上山万本桜公園の桜や芝生等の維持管理 401 千円 船上山公衆トイレ等の維持管理 1,069 千円 登山道整備 304 千円												
成果と課題	[成果] 利用者数 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>27年度</td> <td>23,472人</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>23,263人</td> </tr> </table> * 船上山少年自然の家利用者数  [課題] 大山開山1300年祭に向け、今後人数の増加が予想されることから、利用者に気持ちよくご利用いただけるよう、適正な登山道整備・トイレ美化清掃が必要です。									27年度	23,472人	28年度	23,263人
27年度	23,472人												
28年度	23,263人												
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 行政必須か、委託の可能性は。	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0				
評価点	7	7	1	1	1	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0				
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0				
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0				
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0				
評価点計 (40点満点)	18		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止									
担当課による判定と理由													
C	利用者が減少傾向にある。今後は大山開山1300年祭と連携した新たな取組みにより、利用者の増加を目指す。												

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	408	事業名	道の駅ポート赤碕運営管理			事業区分	□新規 ■継続																												
担当課	商工観光課		担当係	観光係																															
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費																										
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考																											
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源																										
平成28年度	3,406	3,132				2,726		406	使用料																										
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30																												
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6	82.5	86.6																												
		実績	71.3	67.8	65	—	—																												
		達成率	—	90.6%	82.7%																														
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230	240	250																												
		実績	210	217	—	—	—																												
		達成率	—	98.6%																															
事業の対象 (だれに)	施設利用者																																		
事業の目的 (なんのために)	観光情報の発信及び地域特産品の紹介を通して、観光振興及び地域の活性化を図る。																																		
事業の実施状況	施設の維持管理を行いました。 清掃等 (パート職員) 1,078 千円 運営負担金 1,829 千円																																		
成果と課題	〔成果〕		利用者数 307,931人		<p>ポート赤碕入込客数の推移</p> <table border="1"> <caption>ポート赤碕入込客数の推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入込客数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>480,000</td></tr> <tr><td>H18</td><td>440,000</td></tr> <tr><td>H19</td><td>470,000</td></tr> <tr><td>H20</td><td>440,000</td></tr> <tr><td>H21</td><td>430,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>410,000</td></tr> <tr><td>H23</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>H24</td><td>280,000</td></tr> <tr><td>H25</td><td>330,000</td></tr> <tr><td>H26</td><td>340,000</td></tr> <tr><td>H27</td><td>310,000</td></tr> <tr><td>H28</td><td>300,000</td></tr> </tbody> </table>					年度	入込客数 (人)	H17	480,000	H18	440,000	H19	470,000	H20	440,000	H21	430,000	H22	410,000	H23	300,000	H24	280,000	H25	330,000	H26	340,000	H27	310,000	H28	300,000
	年度	入込客数 (人)																																	
H17	480,000																																		
H18	440,000																																		
H19	470,000																																		
H20	440,000																																		
H21	430,000																																		
H22	410,000																																		
H23	300,000																																		
H24	280,000																																		
H25	330,000																																		
H26	340,000																																		
H27	310,000																																		
H28	300,000																																		
〔課題〕		山陰道からポート赤碕に降りてきてもらう誘客方法の形成 ⇒道の駅琴の浦との連携を密にし、情報発信の強化を図る																																	
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																										
評価点	7	3	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																										
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																										
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																										
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																										
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																										
評価点 計 (40点満点)		22		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																														
担当課による判定と理由																																			
B	施設の運営管理の経常経費であるため																																		

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	35	事業名	白鳳祭			事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)					備考
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	4,200	4,123				4,000		123	基金繰入金
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30	
実行委員会参加団 体数	団体	目標	30	30	30				
		実績	29	26	26				
		達成率	97%	87%	87%				
事業の対象 (だれに)	町民、町内事業者、来場者								
事業の目的 (なんのため に)	町内各組織・団体などが集まった実行委員会による「白鳳祭」を開催することにより、まちの活性化を図るとともに、連携を深めることにより商業・観光の振興を図る。								
事業の 実施状況	実行委員会を組織し、第26回白鳳祭を開催した。 開催日 平成28年8月7日 会場 東伯総合公園								
成果と 課題	[成果] 地域の芸能・文化を感じる場を設け、地域の住民、団体が関わりあえる機会を創出しました。 [課題] 住民参加型・協働による運営方針を検討する必要があります。 また、会場周辺の交通渋滞の対策も必要です。								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
評価点	7	3	3	1	1	0	有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			15	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
E	長い経過の中で行政主体のイベントとなっており、本来必要な住民の参画意識が薄れてしまっている。一旦白紙に戻し、仕切り直しが必要と考える。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	1079	事業名	物産館ことうら管理運営			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	観光係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	3	観光費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	34,395	20,607			12,301	6,400	1,906	使用料	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
年間観光入込客数	万人	目標	—	74.8	78.6	82.5	86.6		
		実績	71.3	67.8	65	—	—		
		達成率	—	90.6%	82.7%				
県中部観光入込客数	万人	目標	—	220	230	240	250		
		実績	210	217	—	—	—		
		達成率	—	98.6%					
事業の対象 (だれに)	施設利用者								
事業の目的 (なんのために)	観光情報の発信及び地域特産品の紹介を通して、観光振興及び地域の活性化を図る。								
事業の実施状況	<p>施設の維持管理、運営をいしました。</p> <p>清掃等委託費 2,597 千円 光熱水費 7,172 千円</p> <p>平成28年10月『重点道の駅』への登録を受け、周辺一帯の再整備等に着手しました。</p> <p>観光情報窓口等設置工事負担金 7,109 千円 アーケード撤去等工事費 2,258 千円 『道の駅案内』への広告料 800 千円</p>								
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>道の駅登録による認知度アップが図られました。 各種観光マップやカーナビなどへの対応等 周辺の再整備による集客増が見込まれます。</p> <p>[課題]</p> <p>1 観光窓口を活用したグルメのまちとしての認知度の向上 →物産館ことうら各店舗を主体とした商品開発と広報の充実</p> <p>2 民間活力導入のための道の駅の管理運営の委託 →観光協会等への委託することによるイベント等の実施</p> <p>3 国道9号と山陰道の接続による2つの道の駅の連携強化 →接続へ向けた関係機関との連携強化</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	10	7	3	1	3	3	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)		27		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	観光・商工振興を推進する上で継続すべき事業である。情報発信の拠点としての活用方法が最重要課題であり、先駆的な取組みを検討する必要がある。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	23	事業名	きらりタウン・槻下団地定住促進事業			事業区分	□新規 ■継続																																		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係																																					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費																																
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考																																	
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源																																
平成28年度	6,800	6,700				5,600		1,100	基金繰入金																																
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30																																		
きらりタウン分譲 地の販売	区画	目標	5	5	5	5	5																																		
		実績	9	8	9																																				
		達成率	180%	160%	180%																																				
事業の対象 (だれに)	きらりタウン・槻下団地分譲地への入居者等																																								
事業の目的 (なんのため に)	本町では近年、少子化や働く場の減少、都市部への転出等で、人口の減少が続いており、活力ある地域社会の創造をますます困難にさせている。都市部からの移住や交流促進、若年層の転出抑制を目的に、きらりタウン赤碕は174区画、槻下住宅団地は92区画で分譲を開始した。																																								
事業の 実施状況	交付金等により販売促進を行いました。 分譲地入居者に対する定住促進奨励金 6,600千円 紹介事業者に対する定住促進謝礼金 100千円																																								
成果と 課題	[成果] <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>きらりタウン</th> <th>槻下団地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総区画</td> <td>174</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>販売区画</td> <td>118</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>残区画</td> <td>56</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">きらりタウン赤碕販売状況</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総数</th> <th>内県外</th> <th>内町外</th> <th>内町内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>										きらりタウン	槻下団地	総区画	174	92	販売区画	118	80	残区画	56	12	年度	総数	内県外	内町外	内町内	H26	9	2	1	6	H27	8	3	1	4	H28	9	0	1	8
		きらりタウン	槻下団地																																						
総区画	174	92																																							
販売区画	118	80																																							
残区画	56	12																																							
年度	総数	内県外	内町外	内町内																																					
H26	9	2	1	6																																					
H27	8	3	1	4																																					
H28	9	0	1	8																																					
	[課題] 定期借地権付土地の導入により、毎年の販売を維持しているが、現在も約3分の1の区画が残っており、更なる販売の促進が必要である。																																								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0																																
評価点	3	10	1	0	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0																																
							公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0																																
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0																																
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0																																
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0																																
評価点 計 (40点満点)			18	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																																				
担当課による判定と理由																																									
B	現在も56区画が残っており、住宅供給公社と連携を図りながら、継続した販売促進が必要																																								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	1137	事業名	コトウラ暮らしお試し滞在住宅事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	707	561			109		452	利用料等	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
利用者数	人	目標	10	10	10	10			
		実績	17	9	12				
		達成率	170%	90%	120%				
利用後の移住者数	人	目標	2	2	2				
		実績	1	5	2				
		達成率	50%	250%	100%				
事業の対象 (だれに)	移住定住希望者								
事業の目的 (なんのため に)	人口増加による活気に満ちた地域づくりを推進することを目的として、県外から琴浦町への移住を希望する者に対し、本町への移住定住促進を図るため、気候、風土、生活が体験できる施設として、お試し住宅を設置する。 滞在期間中は、生活面（病院・店舗等）の確認、住まい・仕事探しなどを行っている。								
事業の 実施状況	施設の維持管理及び運営を行いました。 修繕料 111 千円 警備保障等 92 千円								
成果と 課題	〔成果〕 利用実績								
	利用期間		人数	利用者住所		備考			
5/19～5/21		2泊3日	2	静岡県御殿場市					
7/14～7/19		5泊6日	2	神奈川県茅ヶ崎市					
9/17～9/19		2泊3日	2	大阪府茨木市					
9/28～10/19		21泊22日	2	神奈川県茅ヶ崎市		H29.3転入			
11/8～11/10		2泊3日	2	大阪府茨木市					
3/24～3/27		3泊4日	2	静岡県御殿場市		H29.3転入			
計		41日間	12						
〔課題〕									
全国的にお試し住宅の利用料は安価なため、観光目的、ホテル代わりに使用されるケースが問題となっている。									
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
評価点	3	7	1	3	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)		18		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	H25の事業スタートから延べ29家族、41人が利用され、その内5家族10人が転入へと繋がった。一定の成果が見込まれるため、引き続き事業を継続するほか、H29からはワーキングホリデーの宿泊場所としても活用していく。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	902	事業名	移住定住促進事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6 商工費	項	1 商工費	目	4	地域振興費		
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	8,176	7,406		2,115	240		5,051	交付金返還金	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
空き家の登録	件	目標	10	10	10	10			
		実績	8	14	14				
		達成率	80%	140%	140%				
空き家の成立	件	目標	10	10	10	10			
		実績	9	13	10				
		達成率	90%	130%	100%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	移住定住者・希望者								
事業の目的 (なんのため)	人口の減少により、活力ある地域社会の創造をますます困難にさせている。特に中山間地域での過疎化、少子化は著しく、後継者の不在につながり、空き家や遊休農地の増加は深刻な状況となっている。 このような中、都市部からの移住や交流促進を図るための取組が全国の地方でおこなわれている。若年層の転出抑制、Uターン対策とも併せ、地域資源である「空き家」の積極的な活用など、I J Uターンの受入体制の整備を図っていくことが重要となってきている。								
事業の実施状況	移住定住アドバイザー1名を設置し、相談等に対応しました。						2,778 千円		
	空き家情報登録制度利用者への補助金・交付金を交付しました。						2,920 千円		
	空き家購入者又は利用者 (400千円×5件)								
	空き家提供者 (200千円×4件)								
	受入集落 (30千円×4件)								
	空き家リフォーム補助金を交付しました (500千円×3件)						1,500 千円		
成果と課題	〔成果〕								
	○移住者の状況								
		世帯数	人数						
	H27年度	129	173	※内Uターン者数 52人					
	H28年度	101	140	※内Uターン者数 76人					
	○空き家ナビを利用した移住定住奨励金実績								
		件数	金額						
	H27年度	6	2,000,000						
	H28年度	5	2,000,000						
	○空き家リフォーム補助金実績								
	件数	金額							
H27年度	5	2,206,000							
H28年度	3	1,500,000							
○空き家ナビの成立件数									
	賃貸	売却	合計						
H27年度	7	6	13	※内町外 5件					
H28年度	5	5	10	※内町外 4件					
〔課題〕									
自治体間で助成制度の競争が始まっている。I ターン希望者から選ばれるには、充実した助成制度 (インセンティブ) や自治体自体のブランド力が求められる。									
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	7	10	1	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)		25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	将来も安心して琴浦町で暮らし続けるため、また地域づくりの担い手を確保するためにも、継続した粘り強い移住定住施策の取り組みが必要								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	414	事業名	交流ネットワーク事業			事業区分	□新規 ■継続																								
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係																											
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費																						
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考																							
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源																								
平成28年度	541	394					394																								
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30																								
ふるさと便販売数	個	目標	600	600	600	600																									
		実績	580	495	492																										
		達成率	97%	83%	82%																										
		目標																													
		実績																													
		達成率																													
		目標																													
		実績																													
		達成率																													
事業の対象 (だれに)	琴浦町出身者で県外在住者																														
事業の目的 (なんのため)	旧赤崎町では合併前からの取組。合併して琴浦町となり、旧東伯町出身者も含め琴浦云を設立した。 町が抱える課題として、定住促進や地元産業の育成振興、雇用の確保が挙げられる。この課題解決のため、町出身者で県外在住者の組織を設立し、会員相互の交流や親睦はもとより、意見や提言等の情報交換を行う場所を設けること、広報等の発送による会員への情報発信、特産品の案内やふるさと納税、斡旋等を通じて、町外からの情報を提供していただき、町の活性化につなげていく																														
事業の実施状況	<p>ことうら三味ふるさと便 地元特産品を詰めあわせたふるさと宅急便を企画し、町内外への販売促進を図りました。</p> <p>第11回「琴浦会」東日本地区交流会を開催しました。(H28.4.9) 出席：会員他37名、町関係者 8名</p>																														
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>ことうら三味ふるさと便利用件数</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">販売数</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>580</td> <td>495</td> <td>492</td> </tr> </table> <p>琴浦会会員数</p> <table border="1"> <tr> <td>会員数</td> <td>会員数</td> <td>赤碕地区</td> <td>東伯地区</td> </tr> <tr> <td>西日本地区</td> <td>68名</td> <td>37名</td> <td>31名</td> </tr> <tr> <td>東日本地区</td> <td>49名</td> <td>17名</td> <td>32名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>117名</td> <td>54名</td> <td>63名</td> </tr> </table> <p>[課題]</p> <p>ふるさと便は、販売数の減少により、チラシ等の制作費が捻出できなくなっています。 琴浦会も会員が減少しており、加入促進が必要なほか、親睦会だけにならないよう事業内容の見直しが必要となっています。</p>								販売数	H26	H27	H28	580	495	492	会員数	会員数	赤碕地区	東伯地区	西日本地区	68名	37名	31名	東日本地区	49名	17名	32名	計	117名	54名	63名
販売数	H26	H27	H28																												
	580	495	492																												
会員数	会員数	赤碕地区	東伯地区																												
西日本地区	68名	37名	31名																												
東日本地区	49名	17名	32名																												
計	117名	54名	63名																												
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0																							
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0																							
							公平性 受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0																							
評価点	3	3	0	1	3	0	有効性 目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0																							
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0																							
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0																							
評価点 計 (40点満点)	10		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																											
担当課による判定と理由																															
C	ふるさと便は、必ずしも行政が実施すべき事業ではないと考える。 琴浦会については、町のPRを担っていただくなど、事業内容の見直しが必要です。																														

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	38	事業名	公共交通対策			事業区分	□新規 ■継続															
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係																		
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費													
年度	取 予 算 額 (千 円)	決 算 額 (千 円)	事業費財源内訳 (千円)					備 考														
			国 庫 支 出 金	県 支 出 金	そ の 他 (収 入)	起 債	一 般 財 源															
平成28年度	61,213	60,313		12,469	7,684		40,160	町内バス使用料														
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30															
バス利用者数	人	目標	80,000	80,000	80,000	80,000																
		実績	87,853	87,144	78,979																	
		達成率	110%	109%	99%																	
バス運行収入	円	目標	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000																
		実績	8,476,025	8,604,809	7,684,194																	
		達成率	106%	108%	96%																	
事業の対象 (だれに)	琴浦町民、公共交通利用者(通勤・通学者、観光客等)																					
事業の目的 (なんのため)	町営バス(100円運賃バス路線)・デマンド型乗合タクシーの運行と広域バス路線の維持により、生活路線の確保を図る。また、交通空白地には、タクシー利用券助成を行う。																					
事業の実施状況	<table border="0"> <tr> <td>町営バス(5路線)運行委託料</td> <td>46,179千円</td> </tr> <tr> <td>広域路線バス運行費補助金(路線維持費補てん分)</td> <td>8,162千円</td> </tr> <tr> <td>デマンド型乗合タクシー(1路線)運行委託料</td> <td>2,973千円</td> </tr> <tr> <td>バス待合所設置費補助金(2件)</td> <td>1,193千円</td> </tr> <tr> <td>バス停撤去工事</td> <td>454千円</td> </tr> </table>								町営バス(5路線)運行委託料	46,179千円	広域路線バス運行費補助金(路線維持費補てん分)	8,162千円	デマンド型乗合タクシー(1路線)運行委託料	2,973千円	バス待合所設置費補助金(2件)	1,193千円	バス停撤去工事	454千円				
町営バス(5路線)運行委託料	46,179千円																					
広域路線バス運行費補助金(路線維持費補てん分)	8,162千円																					
デマンド型乗合タクシー(1路線)運行委託料	2,973千円																					
バス待合所設置費補助金(2件)	1,193千円																					
バス停撤去工事	454千円																					
成果と課題	<p>〔成果〕</p> <p>町営バス利用実績(単位:人)</p> <table border="1"> <tr><td>上法万線</td><td>9,012</td></tr> <tr><td>野井倉線</td><td>19,780</td></tr> <tr><td>福永線</td><td>6,353</td></tr> <tr><td>船上山線</td><td>22,973</td></tr> <tr><td>琴浦海岸線</td><td>20,861</td></tr> <tr><td>合計</td><td>78,979</td></tr> </table> <p>デマンドタクシー実績(単位:人)</p> <table border="1"> <tr><td>上中村線</td><td>1,940</td></tr> </table> <p>〔課題〕</p> <p>バス車両が老朽化しているため、更新に要する費用負担が課題です。</p>								上法万線	9,012	野井倉線	19,780	福永線	6,353	船上山線	22,973	琴浦海岸線	20,861	合計	78,979	上中村線	1,940
上法万線	9,012																					
野井倉線	19,780																					
福永線	6,353																					
船上山線	22,973																					
琴浦海岸線	20,861																					
合計	78,979																					
上中村線	1,940																					
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0													
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0													
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0													
評価点	10	3	3	1	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0													
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0													
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0													
評価点計 (40点満点)		21		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																	
担当課による判定と理由																						
B	車両の更新も含め、今後の交通体系を検討していく。																					

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	20	事業名	国際交流の推進				事業区分	□新規 ■継続	
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	3,517	3,379					3,379		
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	町民								
事業の目的 (なんのため)	1997年東伯町と麟蹄郡が調印した「友好親善交流協定書」に基づき、交流を行っている。交流を推進することによって、異なる生活・文化等の国際理解を図り、町民の国際意識の高揚を図る。								
事業の実施状況	<p>国際交流コーディネーター（1名）を設置し、住民の国際意識の高揚を図りました。</p> <p>韓国語講座の講師（毎週火曜日） 通訳等としての派遣（年間8件）</p> <p>友好親善交流協定先の韓国江原道麟蹄郡との交流事業をつぎのとおり行いました。</p> <p>招聘 WTC グルメ de めぐるウォーク（10/15） 副郡守ほか6名 訪問 わかさぎ祭り（1/21） 町長ほか職員4名 ※麟蹄郡新南中へ東伯中訪問</p>								
成果と課題	<p>〔成果〕</p> <p>友好親善交流協定を結ぶ韓国麟蹄郡との交流を深めることができました。</p> <p>また、国際交流コーディネーターの活動により、町民が韓国の文化に触れる機会を提供することができました。</p> <p>〔課題〕</p> <p>都市部においては外国人が急増し、多文化共生社会の実現が求められていますが、琴浦町でのニーズは少ない状況です。</p> <p>韓国との交流は、今後どのように発展させるかが課題です。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	3	3	1	0	2	0	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			9	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
D	行政主体の交流を20年続けており、民間主体の交流へとシフトしていくことが必要。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	26	事業名	三本杉ふるさと分校管理			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費
年度	最終 予算額 (千円)	70	決算額 (千円)	66	事業費財源内訳 (千円)				備考
					国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	
平成28年度								66	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	主として古布庄南部地区住民（三本杉ふるさと分校管理委員会）								
事業の目的 (なんのため に)	地域住民の交流等を図る。								
事業の 実施状況	指定管理者（三本杉ふるさと分校管理委員会）により施設の管理運営を行いました。								
成果と 課題	<p>〔成果〕 施設利用者数 3,147人</p> <p>〔課題〕 施設の老朽化に伴う修繕が懸念される。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	7	0	0	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			14	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
D	施設のあり方について方針を検討する必要があります								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	415	事業名	日韓友好交流公園管理運営			事業区分	□新規 ■継続															
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係																		
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費													
年度	最 終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考														
			国 庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源															
平成28年度	4,590	4,276					4,276															
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30														
年間来館者数	人	目標	12,000	12,000	12,000																	
		実績	11,341	9,924	9,067																	
		達成率	95%	83%	76%																	
事業の対象 (だれに)	町民ほか																					
事業の目的 (なんのため に)	日韓友好資料館及び日韓友好交流公園「風の丘」を情報発信拠点として、広く日韓交流の現状及び韓国を理解してもらうことを目的とする。																					
事業の 実施状況	<p>日韓友好を推進するため、国際交流の象徴ならびに観光資源として有効活用するために施設の管理運営を行いました。</p> <p>日韓文化交流促進ウィークを開催し、韓国文化に親しんでいただく機会を創出しました。</p> <p>期日 10月6日～13日</p> <p>内容 交流写真展（東伯中と新南中、WTCグルメめぐるウォーク麟蹄郡招聘） シウォレマダン（民団主催）</p>																					
成果と 課題	<p>〔成果〕</p> <p>日韓友好資料館来館者数</p> <table border="1"> <tr><td>平成22年</td><td>31,847 人</td></tr> <tr><td>平成23年</td><td>22,668 人</td></tr> <tr><td>平成24年</td><td>17,438 人</td></tr> <tr><td>平成25年</td><td>15,607 人</td></tr> <tr><td>平成26年</td><td>11,341 人</td></tr> <tr><td>平成27年</td><td>9,924 人</td></tr> <tr><td>平成28年</td><td>9,067 人</td></tr> </table>								平成22年	31,847 人	平成23年	22,668 人	平成24年	17,438 人	平成25年	15,607 人	平成26年	11,341 人	平成27年	9,924 人	平成28年	9,067 人
	平成22年	31,847 人																				
平成23年	22,668 人																					
平成24年	17,438 人																					
平成25年	15,607 人																					
平成26年	11,341 人																					
平成27年	9,924 人																					
平成28年	9,067 人																					
<p>〔課題〕</p> <p>年々、来館者数が減少しており、来館者を増加させる工夫が必要です。</p>																						
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 獨創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0													
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0													
評価点	3	3	1	1	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0													
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0													
							効率性	コスト・人員効率率はどうか。	5, 3, 1, 0													
							先駆性・獨創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0													
評価点 計 (40点満点)			12	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																	
担当課による判定と理由																						
C	韓流ブームが終わり、来場者が徐々に減少しています。イベントの開催や展示物の充実を図ることにより、リピーターを増やす取組みが必要です。																					

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	25	事業名	八橋ふれあいセンター管理			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	商工観光課		担当係	地域振興係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	4	地域振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	619	571					571		
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	主として八橋住民（やばせ振興魁の会）								
事業の目的 (なんのため に)	地域住民の交流等を図る。								
事業の 実施状況	指定管理者（やばせ振興魁の会）により管理運営を行いました。 指定管理料 371 千円								
成果と 課題	<p>〔成果〕 施設利用者数 1,877人</p> <p>〔課題〕 施設の老朽化に伴う修繕が懸念される。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	7	0	0	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			14	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
D	施設のあり方について方針を検討する必要があります								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

事業番号	873	事業名	企業誘致推進事業				事業区分	□新規 ■継続	
担当課	商工観光課		担当係	商工係					
予算区分	款	6	商工費	項	1	商工費	目	5	企業誘致推進費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)					備考
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	352	342						342	
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
新規企業の誘致	件	目標	0	0	1				
		実績	0	0	1				
		達成率	0%	0%	100%				
事業の対象 (だれに)	県外の企業、関係団体等								
事業の目的 (なんのため に)	県外から企業を誘致することにより、町内の雇用の場の拡大を目指す。								
事業の 実施状況	県外企業や関係者との交流会への参加のほか、企業訪問等を行いました。								
成果と 課題	<p>[成果] 平成28年8月 赤碕新港に林養魚場を誘致</p> <p>[課題] 近年は有効求人倍率が常に1を超え、深刻な人手不足となっている。 町内企業も、外国人技能実習制度などにより人材を確保している状況もある中、多くの雇用を伴う企業誘致は難しい時代となっている。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0
評価点	3	10	1	5	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0
評価点 計 (40点満点)			23	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
D	人材も一緒に移転する本社移転の企業誘致などは、引き続き推進していきたい。								